週刊 観光経済新聞
宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）

● 観光マネジメント学科開設記念シンポジウム

観光立国日本 跡見流こだわり旅

記念対談

観光立国の実現では、女性の果たす役割が注目される。国の観光施策を牽引する溝畑宏観光庁長官と、実践力に満ちた女性を輩出し続けている跡見学園女子大学（東京都文京区）の山田徹雄学長に、女子力と観光の未来を語り合ってもらった。インタビュアーは、同校出身の起業家であり内閣府地域活性化伝道師の政所利子氏。

実践を通して社会を学ぶ 観光は女性の活躍に最適

観光庁長官　溝畑　宏　氏

跡見学園女子大学学長　山田　徹雄　氏

――（インタビュアー）まず、跡見学園について学長から校風を話してください。

山田　本学園を創立した跡見花蹊は、幕末に大阪で生まれ、非常に行動的な人だった。最初は、大阪で跡見塾を開いた後、東京の神田中猿楽町に跡見学校を創設した。この学校は、単に学問を学ぶだけでなく実践的な学校であり、そうした伝統を私たちは受け継いでいる。机上の理論として象牙の塔に籠った学問をするのではなく、社会に出て行く学問の場だと考えている。

――私もそこで学んだ起業家の一人です。若いころの実践経験が、観光ではとくに必要と思われますが。

溝畑　確かに観光では、実践的な経験が大切だ。私も大学時代にアルバイトを42種類やっており、さまざまな経験をした。そこでの経験を通して、人と人が向き合ってコミュニケーションをする大切さを知り、人に幸せや喜びを与えながら自分も幸せを感じる生き方を学んだ。そのことと観光を考え合わせてみると、学問を学ぶ姿勢だと言える。

溝畑　それは、いいことだ。東京大学の学生時代を振り返ったとき、仕送りに頼らずアルバイトをしてきた。それによって、学問だけの頭でっかちでなく、職業観が変わった。どのような職業にも魅力があると体感したのは、そうした実践によるものだ。実践に重きを置くことは非常に意味がある。

――女性が観光で活躍できる場が期待できるとのお話は、女性がもつコミュニケーションや観察をするのが好きなことが大きいと思ううえで、観光産業でどのような未来があるのでしょうか。

溝畑　観光では、国際的な感覚が必要であるとともに、観光ビジネスでは感性や持続力、コミュニケーション能力が欠かせない。そう考えると、女性は特性を生かしてもっと活躍してほしい。世界の潮流も女性が主流になってきている。APECの観光大臣会議では、マレーシアやシンガポール、メキシコほか観光のトップに女性が就いている国が目につく。交渉の場において女性のしなやかな感性、キメ細やかさ、粘り強さがあるからだ。男性は他人の目を気にし過ぎる。

山田　全体的に捉えると、若者が内向きになっている傾向があるようだ。かつて私が学生時代、モロッコから南アフリカまで旅行をしたときに、どこへ行っても日本人が寝袋をもって旅行をしていた。最近は見当たらないが、そういうバイタリティをもった若者を輩出したい。

――私も短大のときにドイツに留学したことで、人生観が大きく変わり、その後、アフリカへも行きました。観光とは、人に直接会って、知らないことを知りたいと思う好奇心が大切だと思います。

溝畑　それは、「旅イコール、アクション」だからだ。私も卒業旅行でベトナムやタイ、インドを放浪した。その中でチャレンジャー精神ほか、いろいろなことを学んだ。とにかく失敗を恐れるなということ。戦後日本の高度経済成長の原点、あるいは明治維新にすべて共通するのは、リスクを冒しても失敗を恐れず、失敗をバネにするたくましい復元力と成長力があったこと。これをもう一度取り戻すには、本物に触れた感動がすべての生命力の源になっていると知ることだ。地デジやインターネットによって、じっとしていても情報は入るが、それは疑似的な体験でしかない。

――外からの情報に縛られる前に、自力で価値観をもつことが大切であり、そのためには失敗を重ねて賢くなることですね。

溝畑　そう。その意味でインターンシップは大事なことだ。こうした学園のカルチャーが他の学校にも広がっていくことを期待している。

山田　ありがとうございました。

左から溝畑長官、山田学長、政所氏

女子大生からみた旅のJAPANブランドの提案

「跡見流こだわり旅」を通して観光立国日本を考えたシンポジウム（同校文京キャンパス）

跡見学園女子大学は、観光マネジメント学科の開設記念シンポジウム（後援・観光庁）を、昨年12月18日に文京キャンパスで開催した。テーマは「観光立国日本　跡見流こだわり旅を考える」で、観光立国と女子力のコラボレーションだ。

学生によるプレゼンテーション、ゲストパネリストが参加するパネルディスカッションに先立って、観光庁長官の溝畑宏氏が基調講演を行った。「観光立国の実現に向けて観光を学ぶ学生に期待するもの」と題した溝畑長官の講演は、観光の将来性に夢を抱かせるポジティブな内容であり、夢の実現には学生時代からチャレンジ精神をもつことが大切だと語りかけた。

学生代表によるプレゼンテーションは、観光立国を女子力で捉えた提言だ。この日に向けて跡見ニューツーリズム研究会のメンバーは、講義に加えてフィールドワークなど、観光立国に向けて多方面からの研鑽に励んできた。それが女子力の当面の活動として「スチューデント・アンバサダー（学生観光大使）」の言葉を生み出した。可能なことから着手する意気込みの表れと受けとめられ、会場には提言に賛同する大きな拍手が湧いた。

もう1つの女子力の表れは、「女子大生からみた次世代ツーリズムと旅の魅力」をテーマにした学生による提案型パネルディスカッション。日本観光協会常務理事の丁野朗氏がコーディネーターとなり、ゲストパネリストには、観光庁長官の溝畑宏氏、同校出身者の政所利子氏、東武タワースカイツリー社長の鈴木道明氏、同校観光マネジメント学科教授の塩月亮子氏、それに跡見ニューツーリズム研究会の学生パネリストが参加した。

ゲストと学生の両パネリストのディスカッションでは、現状への忌憚のない意見が交わされた。例えば学生パネリストからは、現在の東京スカイツリーツアー参加者には、ツアーの半券で完成後の一定期間の再訪にインセンティブをつけたらどうか、あるいは日本の四季をもっと生かすツアーが必要など、さまざまな提案が繰り広げられた。

文学部
人文学科
文学・歴史学・言語・芸術など、幅広い分野を学び、人の営みを総合的にとらえます。
現代文化表現学科
文化表現に関する学問的知識と実践的知識を備え、文化創造を担う人材を育成します。
コミュニケーション文化学科
多文化共生社会の実現を目指し、コミュニケーション能力を実践的に養います。
臨床心理学科
実習などを通じて人の心のはたらきを理論と実践の両面にわたって学びます。
マネジメント学部
マネジメント学科
企業・公共・文化の側面からマネジメントの基礎をインターンシップなどを通じて実践的に学びます。
観光マネジメント学科
「観光振興・観光経営・観光文化」をテーマに、広い分野で観光をとらえながらマネジメント能力を養います。
生活環境マネジメント学科
地球環境から食環境などの身の回りまで、環境とビジネスとのかかわりについて学びます。
大学院
人文科学研究科
●日本文化専攻　●臨床心理学専攻
マネジメント研究科
●マネジメント専攻

ATOMI UNIVERSITY 跡見学園女子大学
文京キャンパス　〒112-8687　東京都文京区大塚1-5-2
新座キャンパス　〒352-8501　埼玉県新座市中野1-9-6
http://www.atomi.ac.jp/daigaku/ TEL048-478-3333

女子力。

跡見学園女子大学を詳しく知りたい方に、資料を送りします。
電話、Webで資料や入学願書の請求ができます。